

# 低温が続いています！ 育苗管理初期の注意点！

J A たきかわ 営農部  
空知農業改良普及センター中空知支所滝川分室

低温、日照不足が続き、東部管内の水稻は種作業は平年に比べ2日程度遅れています(は種期 = 本年4/22、平年4/20)。

週間天気予報では、天候の回復が見込まれていますが、出芽の遅延、低温による事故に注意しましょう。

## 1. 低温時の出芽揃い対策！(出芽揃いまでの地温は、30～32℃)

近年、省力化のため、シルバーポリのベタ掛けのみで被覆している場合が見られますが、これでは低温時の保温対策は不十分です。低温が予想される場合はトンネルを設置し、地温確保対策を実施しましょう。

※4月中は「霜注意報」は発令されませんので、気温の下がる日は注意して下さい。

①二重被覆の上に透明ポリ(有滴フィルム)を用いて二重トンネルを設置する。

※ただし、二重トンネルは低温時の日中と夜間のみの使用を原則とします。

②シルバーポリは、曇天時には掛けない。

③二重被覆は最低2日に1度は除去して、約1時間程度(発芽には酸素も必要)新鮮な空気を入れるようにする。

④かん水は、温水(ため水)をかけ、地温低下を防止する。

※過湿にならないように注意

⑤70%ほど出芽したら、二重被覆を取り除く。

※ただし、二重トンネルは1.5葉期まで夜間のみ使用し、夜間の温度をできるだけ10℃以下にしないようにします。



『極端な低温・高温に注意～根の致死温度』

● - 1℃で約3時間

● + 43℃で20～30分

● + 49℃で1分